

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ 設置者	カッホリジン コウセイガクイン 学校法人 光星学院								
フリガナ 大学の名称	ハチノヘガクイン 大学 八戸学院大学 (Hchinohegakuin University)								
大学本部の位置	青森県八戸市大字美保野13番98号								
大学の目的	カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成する。								
新設学部等の目的	看護師として必要な知識及び技術と態度を体得させ、卒業時に指導助言のもとに看護実践ができる基礎的能力を付与するとともに、看護学研究に関する思考力と創造性を有し、看護学の進歩に即応しつつ、将来的に高度な知識や技術を有した看護師となる基礎を培う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間健康学部 (Faculty of Human Health Science) 看護学科 (Department of Nursing)	年	人	年次人	人	学士(看護学)	平成28年4月 第1年次	青森県八戸市 大字美保野13番98号	
	計	4	80	—	320	—	—	—	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	八戸学院大学人間健康学部健康学科の学部名称を平成28年4月から次のとおり変更する。 人間健康学部 → 健康医療学部 (平成28年4月名称変更予定) <u>八戸学院短期大学看護学科の学生募集を平成28年4月に募集停止する。</u> <u>看護学科(廃止) (△80)</u> ※在学生がいなくなるのを待って八戸学院短期大学看護学科を廃止。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人間健康学部看護学科	講義	演習	実験・実習	計	128 単位			
		66 科目	20 科目	15 科目	101 科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	人間健康学部看護学科	9人 (4)	3人 (3)	6人 (6)	6人 (6)	24人 (19)	5人 (5)	39人 (29)
		計	9 (4)	3 (3)	6 (6)	6 (6)	24 (19)	5 (5)	39 (29)
	既設分	ビジネス学部ビジネス学科	12 (12)	3 (3)	5 (5)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	10 (10)
		人間健康学部人間健康学科	9 (9)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	20 (20)	0 (0)	18 (18)
計		21 (21)	8 (8)	7 (7)	6 (6)	42 (42)	0 (0)	28 (28)	
合計		30 (25)	11 (11)	13 (13)	12 (12)	66 (61)	5 (5)	67 (57)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		6人 (6)		0人 (0)		6人 (6)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		7 (7)		0 (0)		7 (7)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	14,146 m ²	— m ²	— m ²	14,146 m ²				
	運 動 場 用 地	15,000 m ²	— m ²	— m ²	15,000 m ²				
	小 計	29,146 m ²	— m ²	— m ²	29,146 m ²				
	そ の 他	35,484 m ²	— m ²	— m ²	35,484 m ²				
	合 計	64,630 m ²	— m ²	— m ²	64,630 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		大学専用 2,954.98 m ²	大学他学科・短大と共用 11,719.78 m ²	短大専用 5,932.63 m ²	38,849.14 m ²	高校との共用 (7号館3・4階) 710.94m ² 八戸学院光星高等学校 収容定員：1,170名 青森県の基準面積： 6,120m ²			
		(2,954.98 m ²)	高校と共用 710.94 m ² (12,430.72 m ²)	高校専用 17,530.81 m ² (23,463.44 m ²)			(38,849.14 m ²)		
教室等	講義室 15 室	演習室 25 室	実験実習室 7 室	情報処理学習施設 1 室 (補助職員4人)	語学学習施設 0 室 (補助職員0人)	大学全体 (八戸学院短期大学と共有)			
専任教員研究室	新設学部等の名称 人間健康学部看護学科			室 数 16 室					
図書・ 設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学短大共用分 (八戸学院短期大学と共有) 図書 163,100冊 うち外国書 12,747冊 学術雑誌 233種 うち外国書 57種	
	人間健康学部看護学科	6,411 [237] (5,211 [157])	46 [13] (46 [13])	11 [11] (11 [11])	13 (13)	4,273 (4,273)	23 (23)		
	計	6,411 [237] (5,211 [157])	46 [13] (46 [13])	11 [11] (11 [11])	13 (13)	4,259 (4,259)	23 (23)		
図書館	面積 1,646 m ²	閲覧座席数 164 席	収納可能冊数 約195,000 冊	大学全体 (八戸学院短期大学と共有)					
体育館	面積 2,578 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 硬式野球場、軟式野球場、サッカー場、ラグビー場 他			大学全体				
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	経費の見積り	教員1人当たり研究費等	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円			教員1人当たり研究等について、助教は200千円
		共同研究費等	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円			
		図書購入費	802	500	500	500	500		申請学部学科全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		設備購入費	12,032	1,000	1,000	1,000	1,000		
	学生1人当たり 納付金	第1年次 1,590 千円	第2年次 1,320 千円	第3年次 1,320 千円	第4年次 1,320 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、事業収入等						
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	八戸学院大学、八戸学院短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	八戸学院大学	年	人	年次 人	人		倍		青森県八戸市 大字美保野13番98号
	ビジネス学部ビジネス学科	4	80	—	320	学士(ビジネス学)	0.80	昭和56年度	
	人間健康学部人間健康学科	4	80	—	320	学士(人間健康学)	0.94	平成17年度	
八戸学院短期大学								青森県八戸市 大字美保野13番384 号	
	幼児保育学科	2	100	—	200	短期大学士(幼児保育学)	0.99	昭和46年度	
	ライフデザイン学科	2	40	—	80	短期大学士(ライフデザイン学)	0.66	平成18年度	
	看護学科	3	80	—	240	短期大学士(看護学)	1.03	平成21年度	
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要

(人間健康学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
リベラルアーツ	導入教育	宗教学	4秋	2			○								兼1		
		キリスト教概論	1春	2			○								兼1		
		地域文化論	1秋	2			○								兼1		
		基礎演習	1春	1				○		1	5	3					
		プレゼンテーション	1秋	1				○		1	5	3					
		情報処理基礎	1春	1				○							兼2		
		日本語リテラシー	1春	1				○							兼2		
	日本語表現リテラシー	1秋		1			○							兼2			
	外国語を学ぶ領域	英語 I	1春		1			○							兼2		
		英語 II	1秋		1			○							兼2		
		英語コミュニケーション	2春		1			○							兼1		
		英語 (TOEIC) I	2春		1			○							兼1		
		英語 (TOEIC) II	2秋		1			○							兼1		
		ドイツ語	1春		1			○							兼1		
		ドイツ語コミュニケーション	1秋		1			○							兼1		
	人としてのあり方を学ぶ領域	哲学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		芸術論	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		デザイン論	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		心の科学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		行動の科学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
	社会のあり方を学ぶ領域	歴史学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		日本国憲法	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		政治学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		社会学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		国際関係論	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		海外事情	1春秋・2春秋		2						○				兼1	※集中	
	を自然と科学	自然科学概論	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		数学	1春秋・2春秋		2			○							兼1		
		スポーツの科学	1春秋・2春秋		2			○							兼4	※オムニバス	
	小計 (29科目)		10	36	0		—		1	5	3			兼21			
専門教育科目	専門導入科	看護教育のための生物基礎	1春		1		○								兼1		
		看護教育のための化学基礎	1春		1		○			1							
		小計 (2科目)		0	2					1	0	0	0	0	兼1		
	人間と健康	健康医療総論	1春	2				○		1					兼4	※オムニバス	
		生命と倫理	1春	2				○		1					兼1	※オムニバス	
		人間発達学	1春	2				○							兼1		
		解剖生理学 I	1春	2				○							兼2	※オムニバス、演習	
		解剖生理学 II	1秋	2				○							兼2	※オムニバス、演習	
		病態学 I	2春	2				○		1					兼1	※オムニバス、演習	
		病態学 II	2春	2				○		1					兼1	※オムニバス、演習	
		病態学 III	2春	2				○		1					兼1	※オムニバス、演習	
		病態学 IV	2秋	2				○		1					兼1	※オムニバス、演習	
		薬理学	2春	2				○							兼1		
		栄養学	1秋	1				○							兼1		
		微生物学	1秋	1				○							兼1		
		環境と健康	社会福祉論	1秋	1				○							兼1	
			公衆衛生学	2春	1				○							兼1	
			疫学	2秋	2				○							兼1	
			保健統計学 I	2春	1				○							兼1	
	保健統計学 II		2秋		1			○							兼1		
	保健医療福祉行政論 I		3春	1				○							兼1		
	保健医療福祉行政論 II		3春	1				○							兼1		
	小計 (19科目)		29	1	0		—		2	0	0	0	0	兼11			
	専門科目	看護の基本	看護学概論	1春	2			○		1							
			日常生活援助論	1春	2				○			1				兼1	※オムニバス
			回復促進援助論	1秋	2				○			1				兼1	※オムニバス
			看護過程論	2春	2				○			1					
			ヘルスアセスメント	1秋	1				○			1					
			看護倫理	2春	1				○		1						
基礎看護学実習 I			1春	1						○	1	2	3	4	5	兼3	
基礎看護学実習 II			2秋	2						○	1	2	3	4	5	兼3	

教育課程等の概要

(人間健康学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	・看護の展開 成人看護	成人看護学概論	2春	2			○			1							
		成人看護援助論Ⅰ	2秋	2				○		1		1				※オムニバス	
		成人看護援助論Ⅱ	2秋	2					○		1		1				※オムニバス
		成人看護学実習Ⅰ	3秋～4春	3						○				3	1	兼3	
		成人看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3						○				3	1	兼3	
	看護の展開・高齢者看護	高齢者看護学概論	2春	2				○			1						
		高齢者看護援助論	2秋	2					○		1	1		1			※オムニバス
		高齢者看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1						○		3	1	3	2		
		高齢者看護学実習Ⅱ	3秋～4春	3						○		2	1	1	1		
	看護の展開・小児看護	小児看護学概論	2秋	2				○			1						
		小児看護援助論	3春	2					○		1		1			兼1	※オムニバス
		小児看護学実習Ⅰ	3秋～4春	1						○	1		2		3		
		小児看護学実習Ⅱ	3秋～4春	1						○	1		2		1		
	看護の展開・母性看護	母性看護学概論	2秋	2				○			1						
		母性看護援助論	3春	2					○		1		1				※オムニバス
		母性看護学実習	3秋～4春	2						○	1		1	1		兼1	
	看護の展開・精神看護	精神看護学概論	2秋	2				○			1						
		精神看護援助論	3春	2					○		1		2	1			※オムニバス
		精神看護学実習	3秋～4春	2						○			2	1		兼1	
	看護の統合・在宅看護	在宅看護学概論	2秋	2				○			1						
		在宅看護援助論	3春	2					○		1	1					※オムニバス
		在宅看護学実習	3秋～4春	2						○	1	1	1		1		
	看護の統合・看護の発展	統合看護論	3春	2				○			1						
		チーム医療論	3春	1				○			1	1					※オムニバス
		医療安全論	2春	1				○			1						
		看護管理論	3春	1				○			1						
		看護教育論	4秋		1			○			1						
		家族看護論	2春	1				○				1					
		救急看護	4秋		1			○								兼1	
		リハビリテーション看護	4秋		1			○						1			
		緩和ケア論	4秋		1			○			1						
		災害看護活動論	3秋	1				○								兼1	※集中
		国際看護活動論	3春	1				○			1						
		僻地看護活動論	4秋	1				○					1				
		統合看護実習	3秋～4春	2							1	1	5	4	5	兼3	
	公衆衛生看護	公衆衛生看護学概論	3春		2			○			1						
		公衆衛生看護支援論	3春		2			○				1					
		公衆衛生看護活動展開論	3春		2			○					1				
		公衆衛生看護管理論	4秋		1			○			1						
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4秋		2					○	1		1		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4秋		3					○	1		1		1		
	看護の研究	看護学研究法	3春	2				○				1					
		看護卒業研究	4通	2					○		9	3	3				
	小計(51科目)			72	16	0		—			9	3	6	6	5	兼10	
	合計(101科目)			111	55	0		—			7	5	6	6	5	兼39	
	学位又は称号	学士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)											
	卒業要件及び履修方法										授業関係期間等						
	<ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツ(29科目) : 必修科目10単位、選択必修科目8単位、選択科目8単位以上 ※リベラルアーツで26単位以上履修 ・専門導入科目(2科目) : 選択必修科目1単位 ・専門基礎科目(19科目) : 必修科目29単位 ・専門科目(51科目) : 必修科目72単位 合計 : 必修科目111単位、選択必修科目9単位(リベラル8単位、専門導入1単位)、 選択科目8単位以上(リベラル)、合計128単位以上 										1学年の学期区分			2学期			
											1学期の授業期間			15週			
											1時限の授業時間			90分			
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師国家試験受験希望者は、卒業要件を満たし、専門基礎科目の環境と健康の科目群から「保健統計学Ⅱ」の1科目1単位、専門科目の公衆衛生看護の科目群から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学支援論」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の6科目12単位、単位数合計141単位以上を履修すること。 																	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康医療学部看護学科等)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リベラル アーツ	導入教育	宗教学	現代の日本人にとっては、宗教は馴染みにくいものと感じられるかもしれないが、実際のところ、社会や日常生活の多くの場面に、伝統的宗教の影響や特有の宗教観を見ることができる。様々な宗教の信仰構造を理解しておくことは、現代の国際社会の諸問題を読み解くための基礎的教養となろう。本講義では、八戸大学の建学の精神「神を敬し、人を愛する」の由来を導入とし、現代宗教学の主な成果を見たうえで、中東に端を発するユダヤ教、キリスト教、イスラム教の成立史と信仰構造の特性を学ぶ。
		キリスト教概論	キリスト教はヘブライの宗教的伝統（ユダヤ教）の内側から成立し、ギリシャ思想の影響を受けて、ヨーロッパにおいて展開した宗教である。本講義では、聖書をもとにユダヤ教とキリスト教の成立史の詳細をたどりながら、主要な宗教思想を学ぶ。
		地域文化論	近年、「地域活性化、地域創生」という言葉がクローズアップされている。各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指して、内閣総理大臣を本部長とする地域創生本部が設置され、平成26年12月には「まち・ひと・しごと創生法」が施行された。地方創生本部の3つの視点のひとつに「地域の特性に即した地域課題の解決」が挙げられている。そこで本講義では、学外の他の機関などとも連携しつつ、①地域文化の歴史と特性、②地域発展に貢献した先人の事例、③地域活性化の現状と課題の解決策などについて学修することを主たる目的とする。
		基礎演習	この科目は学生が高等学校段階から大学での学習にスムーズに移行できるように配置され、少人数グループのゼミナール形式で行われる。授業の目的は、学生がスタディスキルズを身に付けることである。各人が自らの問題意識に基づいて、それぞれのテーマを見つけ、自分の考えを整理し、相手に伝える能力を養い、様々な方法で情報交換を行う方法を身につけることである。そのために、様々な情報収集ツールの活用法やそれぞれの考えを文書にまとめるレポート・論文の書き方等が身につくような基礎的な訓練を行う。
		プレゼンテーション	この科目は「基礎演習」と同様に、学生が高等学校段階から大学での学習にスムーズに移行できるように配置され、少人数グループによるゼミナール形式で行われる。この科目では基礎演習での情報収集と文章作成力の習得を前提に、それらを伝達・交換するための技術の習得や実践練習を目的とする。具体的には、レジュメの作成や発表方法を学び、パソコンを活用した効果的な伝達方法を身につけ、各自のテーマに沿って発表を行う。さらに、ゼミでの討論の進め方に関する基本的な知識と実践力を習得する。
		情報処理基礎	今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。
		日本語リテラシー	日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としています。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、格言、慣用語の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修します。
	日本語表現リテラシー	情報社会といわれる今日、インターネットや携帯電話等の電子メールの普及により、以前と比べて文章を書く機会が増えています。それに伴い、文章の読解、要約、作成等の文章能力が改めてクローズアップされています。日本語表現リテラシーは、読解力、思考力、構成力、表現力を養成し、的確で論理的な文章表現能力を身につけることを目的としています。その目的達成に向け、①文章の内容・要旨・意図の正確な把握、②情報の整理、問題の発見、独自の考えの創造、③文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握、④簡潔でわかりやすく効果的な表現という内容を中心に、演習、グループディスカッションを取り入れた授業を行います。	
外国語を学ぶ領域	英語 I	この講義は、タスクを中心とする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康医療学部看護学科等)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リ ベ ラ ル ア ー ツ	外 国 語 を 学 ぶ 領 域	英語Ⅱ	英語Ⅰからさらに前進したタスクワークを中心に、スキルを磨く。この講義は、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。
		英語コミュニケーション	この科目は、第一段階として、基本的な英語力とコミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には「聞く」「話す」「読む」「書く」を反復練習することによって、総合的な英語能力の向上をはかる。第二段階として、応用的な英語力とコミュニケーション能力の向上、特に「英語を話す」能力の向上を目指す。授業では、ペアでの学習やグループ学習などの実践的な相互コミュニケーション活動を積極的に取り入れる。
		英語 (TOEIC) Ⅰ	TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場における日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEICⅡのレベルと同じである。TOEICⅠの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広げる。
		英語 (TOEIC) Ⅱ	TOEICⅡでは、TOEICⅠで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEICⅠ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。
		ドイツ語	ドイツ語の初歩、主として現在形を用いた表現を学んで行く。ドイツ語の発音はローマ字が読むことさえできれば極めて容易であり、まず、(1)アルファベット(ABC...)から始めて、(2)平易な文章に触れ、(3)文を作る際のルール(=文法)を理解し、(4)背景にある文化や歴史にも目を向けることになる。次に、助動詞や完了形を用いた表現を学ぶ。ここでは定動詞と関わりの深いものほど末尾に置かれるというドイツ語の構文の特徴(=枠構造)を理解することが肝要である。
		ドイツ語コミュニケーション	ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活や学生生活でのコミュニケーションに必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。
人 と し て の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	人 と し て の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	哲学	本講義では、古代・中世の西洋哲学史を学ぶ。我々が頭の中ないしは心の中で抱く「概念」は、何らかの「もの」を表示している。世の中にある多種多様な「もの」について考え、その原理や一般的法則を考えることが広い意味での学問であるが、その営みは哲学者と呼ばれる人々によってはじめられた。彼らは目に見える「形あるもの」だけでなく、「心の中のもの」に関する法則や原理について、深く考えた人々である。本講義では、西洋の古代、中世という時代に活躍したそのような哲学者たちの考えを学ぶ。
		芸術論	私たちは時代や環境から多くの精神的影響を受けているが、特に今日私たちを取り巻く社会・生活は環境や生活様式が大きく変化し、多様・複雑化してきている。この講義では造形芸術表現や身近な生活文化について、ひとりひとりが違う感動や心の思いと創造表現について、他の表現分野との関連も比較しながら多角的に考えるまた講義と合わせて、身近な自然や日常の生活を題材に基礎的な表現実技の過程を体験し、自分自身が感じていることを生きた手触りとして確かめてみましょう。それはもう一つの生きる意味や新たな価値観、発想と創造の素晴らしさに出会うきっかけとなる。
		デザイン論	私達は実にさまざまなデザインされたものに囲まれているが、社会・生活と密接に結び付き、「使用」・「情報伝達」・「空間・環境形成」などの具体的目的を持つデザインが、ひとの長い歴史のなかでどのような目的・意図のもとに何を生み出してきたのか。また、それらは社会・生活にどのような変化や影響を及ぼしてきたのか。そしてこれからのデザインはどのような方向に進もうとしているのか等について、さまざまな事例を具体的に挙げながら考察を進める。
人 と し て の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	人 と し て の あ り 方 を 学 ぶ 領 域	心の科学	本講義では、心理学の観点から「心」の基本的なメカニズムについて考えていきたい。心理学の研究によって、「心」の意外な働きが分かってきた。本講義では、知覚、記憶などの認知的な側面から心理学の基礎について概説する。また、人格、知能、発達などから、その人特有の個性を形作る「心」の働きについても学ぶ。
		行動の科学	人間は社会的な存在であり、他者の存在がその人のありように大きな影響を与える。この授業では、心理学的な視点から集団における人間の行動や心の動きについて概説する。また、心の病やそれに対する治療、援助について学び、臨床的・応用的な見地からも「心」の働きについて考えていく。

授 業 科 目 の 概 要			
(健康医療学部看護学科等)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リベラル アーツ	社会のあり方を学ぶ領域	歴史学	グローバル化した現世界において、日本をかこむ世界や日本の過去について学んでおくことが必要なことはいままでのないだろう。特に昨今関係が複雑になっている、中国、韓国との関係やT P Pで議論になっている環太平洋圏の関係をj知ること、非常に重要である。本講義ではいわゆる高校までの「歴史」から一歩すすんで、世界の中の日本や日本の中の世界を考える歴史を学んでもらうことにする。
		日本国憲法	本講義は日本国憲法を教養・知識として習得してもらうために、日本国憲法の基本概念や現代社会で生じている様々な憲法問題を取り上げて、憲法に対する認識を深めてもらうことを目的とする。憲法の規定する人権と統治機構について、判例・学説を踏まえながら各種資格試験（特に公務員試験）を視野に講義する。
		政治学	統治の正当性、統治のシステム、統治のプロセス、統治のモニタリングについて学ぶ。統治の正当性については、政治と経済、自由と自由主義、福祉国家、国家と権力等政治の基本的な概念を学び、市民社会と国民国家、国内社会と国際関係について講義する。統治のシステムは政治を支える議会、執政部、官僚制について学び、統治のプロセスである政策過程について学ぶ。そして、近年重要性が高まっている統治のモニタリングについては、デモクラシー（民主主義）とは何かについて学び、政治参加、投票行動、世論、メディアについて概説する。統治の正当性、統治のシステム、統治のプロセス、統治のモニタリングについて学ぶ。
		社会学	コント以降、社会学は発展し、様々な理論が構築され、多くの研究が行われてきた。本講義では、基本的な社会学史を踏まえ、ウェーバー、デュルケムなどの基本的な社会学理論について解説する。さらに、今日の社会調査の手法について説明し、社会調査の利点および欠点について考える。つづいて、現実社会に対する社会学的分析、とくに家族と地域社会に関する分析を紹介し、社会学的な視角・分析について理解する。
		国際関係論	グローバル化に伴い、ヒト、モノ、カネ、情報、サービスがめまぐるしく移動している。本講義では、それらのうち、ヒト——移民——をとりまくグローバルな動向について解説した後に、移民に関する基本的事項をとりあげ、国際移民について理解する視角を獲得することをめざす。ヒトの国際移動が日常的に見られ、グローバル化がいかに身近な生活に浸透しているかについて、具体的な事例をあげながら解説する。
		海外事情	この科目は国際理解教育の観点から外国に一定期間滞在して、人的交流と語学研修等を通して、具体的かつ実践的な海外各国の異文化世界の事情等を学ぶことを目的とする。海外研修期間は8月上旬および2月下旬のそれぞれ約3週間であり、本学の姉妹校である ハイラインコミュニテイカレッジ（アメリカ合衆国デイトン市）とフェアイースタン大学（タイ国チェンマイ市）を研修地とする。訪問国の家庭にホームステイしながら、現地の人々や学生、各国からの留学生との交流を通じてグローバルなコミュニケーション感覚を養う。この間、英語、諸活動プログラムを受講するとともに、隣接するフェデラルウェイ市庁舎への訪問やボーイング社等の見学を行い、現地実務家による特別講義も予定している。
	自然と科学を学ぶ領域	自然科学概論	生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれを取りまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。生命現象を理解するために、これらの自然科学（生物学、化学、物理学）の基礎を理解する。
数学		数学は、抽象的な論理展開を通じて物事の本質を見ようというものである。また、就職に関する試験などでも数学の知識が求められることから、今や数学の知識は社会において必要不可欠であるといえる。本講義では、数の概念、線形代数、解析学の基礎的内容を講義することを通じて、2年次以降に配当されている応用科目の橋渡しや研究における客観的な思考力を身に着けることを最終的な講義の目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
リベラルアーツ	自然と科学を学ぶ領域	スポーツの科学	<p>現代社会においてスポーツの持つ役割はますます重要なものとなっている。スポーツの本質を理解することは、スポーツの専門家を目指す場合だけでなく、健全な市民として身に付けるべき教養として不可欠なものであり、それは自然科学、人文科学、社会科学をはじめとする諸学問の力を借りる必要がある。本講義では、自らの心身を健康に保つため、そして生涯にわたりスポーツに親しむために必要となるスポーツの科学的知識を理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号30 三本木 温/3回) スポーツ科学とは何か、近代スポーツの成り立ち、スポーツと科学 (調書番号32 渡邊 陵由/4回) 体力とは何か、体力測定、体力評価 (調書番号35 工藤 祐太郎/4回) トレーニングの原理・原則、トレーニングの構成・体力測定の活用 (調書番号36 嶋崎 綾乃/4回) 運動生理学の基礎、スポーツのバイオメカニクス</p>	オムニバス形式
		看護教育のための生物基礎	<p>本講義では、看護・医療の基礎科学として、生命現象の共通性や特異性すなわち細胞・秩序・動的平衡・エネルギー・恒常性・反応性・成長と生殖・遺伝・適応による進化などを追及する。高校で生物を履修していない学生にも理解しやすいよう、平易で明快な表現を用いた授業とする。</p>	
専門教育科目	専門導入科目	看護教育のための化学基礎	<p>医療系教育において、人の正常な活動や疾病に理解には、身体を構成する物質とその反応を知ることが不可欠である。本講義では看護の道に進む学生が興味を持って化学を学べるよう、なるべく日常生活や健康・医療に関連した事項を取り上げ、無機化学・有機化学の理解を通して、生化学・薬理学・栄養学の学びにつながるように教授する。</p>	
		健康医療総論	<p>少子高齢化が進むなかですべての人が生きがいをもって日々の生活を送れるような社会の構築が求められており、健康に関する諸問題はその中心的事項である。本講義においては、専門の異なる5名の教員がオムニバス方式でそれぞれの立場から関わりの深いトピックスを取り上げて健康の意義について考察する。健康、医療について「からだ」、「こころ」、「社会」といった観点から多面的に理解し、各専門分野を学修して行くための基礎的知識の習得や連携の重要性を念頭に講義を進める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号22) 遠藤 守人/3回) 疾病の成り立ちと健康との対比について (調書番号①) 蛭田 由美/3回) 健康な生活を営むための疾病への対応について (調書番号34 小柳 達也/3回) 福祉制度からみた現代社会と健康問題について (調書番号32 渡邊 陵由/3回) 体力の理解と健康の維持・増進について (調書番号33 金地 美知彦/3回) 現代生活における心の健康とストレスについて</p>	オムニバス形式
	専門基礎科目	生命と倫理	<p>生命は何故かけがえないものであるのか。人間には何故、尊厳があるのか。人類の歴史は、生命や尊厳を軽視してこなかったか。現代社会において生命や尊厳について何が問題となり、私たちはどのような選択を迫られているか。こうした生命倫理の諸問題を学ぶことが、本講義の目的である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号28 木鎌 耕一郎/7回) 倫理の概念と基本的人権、人間の尊厳の思想、人権問題の歴史について (調書番号②) 高橋 正知/8回) 生命の誕生と尊厳、職業と倫理、現代の生命倫理について</p>	オムニバス形式
		人間発達学	<p>人間の発達について、胎児期から乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期までの各段階における身体的、心理的、社会的発達について総合的に学ぶ。 人間が生涯にわたって発達することを理解することで、自分自身を見つめ直し、更に人間の暮らしを支援する仕事 ～医療・保健・福祉および教育など～ に従事する際に必要な基礎的知識を獲得することを目的とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康医療学部看護学科等)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 人間と健康	解剖生理学 I	<p>ヒトの身体について、その基本の構造（解剖学）と機能（生理学）を学び、健康を保持するために身体がどのようにして自己を維持し生命活動を営んでいるか、また日常生活においてどのような機能を果たしているかを総合的に学習する。とくに解剖生理学Iでは人体の仕組みについての基礎的知識、栄養の消化と吸収、呼吸と血液の働き、血液の循環とその調節、体液の調節と尿の生成について系統的に教授する。さらに、学んだ器官・臓器について、人体模型を用いた肉眼的観察および正常組織標本を用いた顕微鏡による観察を行って理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号21) 吉田 稔/10回 構造と機能からみた人体、栄養の消化と吸収、血液の働き、演習 (調書番号32 渡邊 陵由/5回) 呼吸と血液の働き、血液の循環と調節、体液の調整と尿の生成、演習</p>	オムニバス形式
	解剖生理学 II	<p>解剖生理学 I に引き続き、健康を保持するために身体がどのようにして自己を維持し生命活動を営んでいるか、また日常生活においてどのような機能を果たしているかを総合的に学習する。とくに解剖生理学 II では内臓機能の調節、からだの支持と運動、情報の受容と処理、外部環境からの防御、生殖・発生と老化について系統的に教授する。さらに、学んだ器官・臓器について、人体模型を用いた肉眼的観察および正常組織標本を用いた顕微鏡による観察を行って理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号21) 吉田 稔/5回 内臓機能の調節、外部環境からの防御、生殖・発生と老化、演習 (調書番号32 渡邊 陵由/10回) からだの支持と運動、情報の受容と処理、演習</p>	オムニバス形式
	病態学 I	<p>適切な看護を実践するためには、患者の身体にどのような異常が生じて、その異常がどのような 障害を引き起こしているのかを正しく理解している必要がある。疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に 従事できる能力を身につけることを目的とする。病態学Iでは、総論として疾病による身体変化や質病の原因、診断・治療の概略を教示し、さらに呼吸器疾患、循環器疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として呼吸機能検査の異常、心電図の異常からみた症例検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号2) 高橋 正知/10回 総論および循環器疾患の診断と治療、演習 (調書番号22) 遠藤 守人/5回 呼吸器疾患の診断と治療、演習</p>	オムニバス形式
	病態学 II	<p>適切な看護を実践するためには、患者の身体にどのような異常が生じて、その異常がどのような 障害を引き起こしているのかを正しく理解している必要がある。疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に 従事できる能力を身につけることを目的とする。病態学 II では消化器（消化管、肝・胆・膵）疾患、血液・造血器疾患、アレルギー・膠原病疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として貧血から考える症例、発熱から考える症例について検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号2) 高橋 正知/5回 血液・造血器疾患の診断と治療、演習 (調書番号22) 遠藤 守人/10回 消化器疾患、アレルギー疾患・膠原病の診断と治療、演習</p>	オムニバス形式
	病態学 III	<p>適切な看護を実践するためには、患者の身体にどのような異常が生じて、その異常がどのような 障害を引き起こしているのかを正しく理解している必要がある。疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に 従事できる能力を身につけることを目的とする。病態学 III では運動器疾患、脳・神経疾患、内分泌・代謝疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として、血圧測定から血圧異常と脳疾患について、体組成の測定から骨量の異常や肥満の症例について考え検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号2) 高橋 正知/9回 運動器疾患、脳・神経疾患の診断と治療、演習 (調書番号22) 遠藤 守人/6回 内分泌・代謝疾患の診断と治療、演習</p>	オムニバス形式

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康	人間と健康	病態学Ⅳ	<p>適切な看護を実践するためには、患者の身体にどのような異常が生じて、その異常がどのような障害を引き起こしているのかを正しく理解している必要がある。疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に従事できる能力を身につけることを目的とする。病態学Ⅳでは腎・泌尿器疾患、感覚器系疾患（皮膚・眼・耳鼻咽喉）、精神疾患、歯・口腔疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として尿検査の異常、皮膚症状の異常からみた症例検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号② 高橋 正知/8回) 感覚器系疾患および精神疾患の診断と治療、演習 (調書番号②② 遠藤 守人/7回) 腎・泌尿器疾患、歯・口腔疾患の診断と治療、演習</p>	オムニバス形式
		薬理学	<p>ヒトは生を受けてから死に至るまで多くの病気の脅威にさらされているが、その治療に大きな役割を果たすのが薬である。体内ではそのような機序で薬が作用するのか、異なった薬を使用した場合の相乗効果、副作用や毒性、誤った使用方法などを知り、両刀の刀である薬を正しく安全に有効に使用できるよう、総合的な知識を身に付ける。さらに、新薬がどのようにして研究開発され販売されるのか、新しい薬が生まれるまでの課程を理解する。</p>	
		栄養学	<p>生命を営む上で必須である「栄養」の基礎知識を習得し、健康の維持や疾病の治療における栄養（食事）療法の役割と実際について学ぶ。基礎知識を応用し、特に高齢者の低栄養やライフサイクルを通しての生活習慣病を回避するためのマネジメントなど、医療と保健活動において栄養面からのアプローチができるようになることを目標とする。</p>	
		微生物学	<p>人間の生活環境に存在している微生物には、人体に有用な微生物や病気の原因となる病原微生物がある。生物の有用な代謝産物の医学的応用について理解するとともに、病原微生物感染から人体を防御する手段を考える必要がある。そこで、感染防止の手段として滅菌、消毒等の感染から人体を防御する基本的概念やワクチンや抗生剤によって感染拡大から人体を防御するメカニズムを理解する。このように人の生活面における微生物の利害両面にわたる関わり合いを認識し、衛生管理の意識を育成する。</p>	
	環境と健康	社会福祉論	<p>わが国の社会保障と社会福祉制度について歴史の変遷を学び、「人間の尊厳」を守るということについて考える。現在の社会福祉・保障制度によって人々の生活はどのように守られているか、もし生活困窮に陥った時どうしたらよいのか、生活に深く結びついている社会福祉の考え方を法律や制度と関連付けて理解できるように教授する。</p>	
		公衆衛生学	<p>公衆衛生学は個人、家族、地域社会さらには国民全体の健康の増進、疾病の予防のための学問体系である。疾病予防のみでなく、感染予防、積極的な健康増進の達成を目標としている。講義では、公衆衛生の意義と目的、歴史、研究方法（疫学、保健統計）とともに、環境、食品と健康、母子・老人・学校保健並びに社会保障と福祉について講義する。公衆衛生の意義を認識しその方法論を習熟し、日本における保健・医療・福祉のシステム等の基礎的な理解をすることを目的とする。また、医療現場における感染予防の問題についても学習する。</p>	
		疫学	<p>公衆衛生の基盤となり、得られた知見を現在あるいは将来の国民の健康に寄与するために、明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布及びそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策を検討するための原理と方法を学ぶ。</p>	
		保健統計学Ⅰ	<p>統計学は、何らかの集団の特徴を数量化したもので把握し活用する方法論ではあるが、その特徴が健康に関連したものが保健統計学である。本講義では、保健統計学の考え方および推定・検定の考え方。データの度数分布、代表値、ばらつきの指標の計算方法、区間の推定、適切な検定の選択、検定の手順などを理解する。</p>	
		保健統計学Ⅱ	<p>本授業は、「保健統計学Ⅰ」で学んだ保健統計学に関する基本的な考え方、保健統計の進め方の手順に従って、保健福祉の現場で用いることが多い統計学的分析や検定結果を正しく解釈する方法について、データを用いた演習を通して教示する。</p>	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	<p>保健医療従事者として地域保健を実践する上で不可欠な知識として、保健医療福祉の制度や組織、内容、またその変遷について理解させ、保健福祉計画の策定から評価までのプロセスと策定方法を教示する。近年特に保健師に求められる保健政策の施策化能力を身に付けられるように、保健事業の立案プロセスを紙上演習を通して教示する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	環境と健康 専門基礎科目	保健医療福祉行政論Ⅱ	保健医療従事者として必要なわが国の保健医療福祉制度の概要と制度を支える法規について教示する。法とは何か、法の社会性・規範性といった基本的な事項から、高度先進医療や医療事故の動向とその対応、法的側面からの看護倫理の課題等について教示する。	
	看護の基本 専門科目	看護学概論	看護を学ぶ第一歩として、看護の基本概念である「人間」・「健康」・「環境」・「看護」の4概念と、その関係を学ぶ。また、看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割や機能についても理解し、自らの看護観を構築していくための手がかりとするとともに、看護の専門職として厳しく問われる看護倫理についての重要性を理解する。	
		日常生活援助論	人間の生活を看護の視点から捉え、解剖生理学と連動させながら、看護の専門性の裏づけとしての対象にあわせた看護技術を習得する。日常生活看護技術としての食事・清潔・排泄を中心とした看護技術について教授する。また、安全管理の重要性についても学習する。 (オムニバス形式/全30回) (調書番号⑭ 小沢 久美子/講義5回、演習10回) 1. 看護技術とは 2. 共通する看護技術 (快適な環境を作る) 演習: 手洗い・病床環境の調整・ベッドメイキング 3. 共通する看護技術 (感染を予防する・安全を守る) 演習: 手洗い・病床環境の調整・ベッドメイキング 4. 共通する看護技術 (効率的で安楽な動きを作り出す) 演習: 体位と移動 5. 健康的な日常生活行動の促進 (活動・運動) 演習: ベッドメイキング ※演習は共同 (調書番号⑭ 玉懸 多恵子/講義5回、演習10回) 1. 健康的な日常生活行動の促進 (休息・睡眠) 演習: 臥床患者のシーツ交換 2. 健康的な日常生活行動の促進 (身体の清潔) 演習: 手浴・足浴・陰部洗浄・清拭・寝衣交換・洗髪 3. 健康的な日常生活行動の促進 (食事・栄養) 演習: 食事の援助・口腔ケア 4. 健康的な日常生活行動の促進 (排泄) 5. 生命活動を支える (体温調節・安楽の確保) 演習: 罨法 ※演習は共同	オムニバス形式
		回復促進援助論	医療的側面から人間の健康に寄与する目的で、診察・検査・治療に伴う看護技術を教授する。回復促進の看護技術では、身体各部の主要症状を緩和するために必要となる周辺科学の知見に基づくエビデンスと技術の実際について理解を深める。 (オムニバス形式/全30回) (調書番号⑮ 小笠原 陽子/講義5回、演習10回) 1. 感染予防を促進する技術 演習: 滅菌手袋着脱・ガウンテクニック・滅菌操作 2. 皮膚・創傷を管理する技術 演習: 包帯法・ガーゼ交換 3. 呼吸を楽にする技術① 演習: 吸引・吸入・酸素療法 4. 治療・検査を安全に正確に行う技術① 演習: 一時的導尿 5. 治療・検査を安全に正確に行う技術② 演習: 浣腸 (調書番号⑭ 小沢 久美子/講義5回、演習10回) 1. 与薬を安全に行う技術① 演習: 皮下注射・筋肉注射 2. 与薬を安全に行う技術② 演習: 静脈内注射 3. 与薬を安全に行う技術③ 演習: その他の与薬の方法 4. 看護過程① 5. 看護過程②	オムニバス形式

授 業 科 目 の 概 要 (健康医療学部看護学科等)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	看護 の 基本	看護過程論	看護を実践する上で必要な質の高い人間的ケアを、効率的にかつ適正に行うための組織的・系統的な方法を学習する。また事例演習を通して、臨地実習における看護展開の基礎を学ぶ。	
		ヘルスアセスメント	看護を科学的、理論的に実践する方法としてのヘルスアセスメントの意義を理解するとともに、ケアの臨床的意志決定の中心的構成要素であるヘルスアセスメントの知識と技術を学ぶという目的のもと、講義と演習を組み合わせながら授業を展開する。	
		看護倫理	患者の権利とその擁護、人間の尊厳、看護職の責務と倫理原則など看護を实践する上で必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定の考え方および方法を学ぶ。看護実践、看護教育、看護研究、保健医療政策における倫理的問題について、理論を用いて分析し、看護の価値が何か、看護者はどう行動すべきかについて考察する。本科目を通じて、看護の価値を追求し、倫理的課題に対処する方法を身につけ、高い倫理観を醸成する。	
		基礎看護学実習Ⅰ	学内で学んだ知識を基に、看護師や他の保健医療従事者の活動の見学をとおして、病院・病棟における入院患者の療養環境についての認識を深める。入院中の患者とのかかわりと看護への参加体験をとおして、看護活動の実際について理解し、看護を学ぶ上での自己の課題を見つける。	
		基礎看護学実習Ⅱ	医療施設における入院患者の療養生活を理解し、日常生活の援助を実践しながら、対象に適した看護を实践するための看護過程の展開方法を学ぶことができる。	
	看護 の 展 開 ・ 成 人 看 護	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人各期の特性（身体的・心理的・社会的を含む）を全人間的、総合的に理解する。また成人期の健康特性、生活特性および加齢の進行とそれに基づく生活習慣病の予防など健康問題を理解したうえで、疾病の回復から健康増進まで成人看護の特定を概観し、成人期にある人を看護するための理論と方法を学ぶ。	
		成人看護援助論Ⅰ	急性期にある対象への看護を实践するために必要な病態、治療、急性期看護、周手術期看護の考え方、援助方法を講義。演習を通して教授する。 (オムニバス方式／全30回) (調書番号3 木村 紀美／10回) 急性期看護総論、周手術期看護総論、生命の危機状態にある対象と家族の基本的看護技術 (調書番号⑩ 山野内 靖子／20回) 主要な疾患の急性期及び周手術期における患者の看護	オムニバス形式
		成人看護援助論Ⅱ	慢性疾患の特徴を理解し、疾患を抱えて生きる人とその家族がセルフケア能力を高めることができるよう援助するための知識・技術および、終末期・緩和ケアにかんする基礎的知識と看護援助について、講義・演習・グループディスカッションを通して教授する。 (オムニバス方式／全30回) (調書番号3 木村 紀美／10回) 慢性期看護総論、終末期看護 (調書番号⑪ 下川原 久子 /20回) 主要疾患の慢性期にある患者の看護、多職種との連携および社会資源の活用	オムニバス形式
		成人看護学実習Ⅰ	成人看護学実習Ⅰでは、急性期にある成人患者及び家族の看護を实践的に学ぶ。外科的治療など急性期ケアを受ける成人患者、疾病の急性経過の時期にある成人患者の身体的、心理的、社会的影響を総合的に理解し、回復と適応に向けた看護ケアの実際を体験的に学ぶ。	
		成人看護学実習Ⅱ	成人看護学実習Ⅱでは、慢性期または終末期にある成人患者及び家族の看護を实践的に学ぶ。 慢性期又は終末期における治療処置を受ける成人患者の身体的、心理的、社会的影響を総合的に理解し、社会復帰又は在宅療養に向けた看護ケアの実際を体験的に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	看護 の 展 開 ・ 高 齢 者 看 護	高齢者看護学概論	高齢期にある人の加齢に伴う変化と特徴を分析、理解し、身体的な不健康や疾病と家族、地域、社会などの関連の重要性を認識することで高齢者の病態生理を理解し、適切なケアのあり方や、全人的な視点から身体的な機能の低下、配偶者や身近な友人の喪失、社会的地位や役割の低下といった背景を学ぶ。高齢者の健康のあり方とQOLを考えた生活支援および看護ケアについて、老人保健・医療・福祉・介護保険制度のシステムとあわせて保健・医療・福祉の連携を理解し看護職の役割を学ぶ。	
		高齢者看護援助論	高齢期にある対象の老化の特徴と健康レベルに応じた援助に必要な基礎知識・技術・態度を学ぶ。またリハビリテーション期、終末期における高齢者の看護、入院に伴う看護と高齢者に多い疾患に伴う看護、認知症高齢者の看護について学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (調書番号⑦ 辻村 史子/3回) 高齢者のヘルスアセスメント、生活機能を整える援助、演習 (調書番号⑧ 加賀谷 紀子/7回) (調書番号⑰ 岩織 美保子/20回) 高齢者特有の症状・疾患の看護、演習	オムニバス形式
		高齢者看護学実習 I	高齢者の発達課題および心身の特性、健康レベルの多様性について理解し、慢性疾患や障害をもつ高齢者の健康と生活の自立を支援するために必要な基礎的能力を養う。	
		高齢者看護学実習 II	老年期の発達課題や心身の特性および健康レベルの多様性について理解し、さまざまな健康レベルの高齢者に対してQOLの維持・向上を目指した看護を実践する基礎的能力を養う。	
	看護 の 展 開 ・ 小 児 看 護	小児看護学概論	小児の健康について生命の進化および地球環境における生態学的健康の観点から捉え、小児の権利を基盤に小児看護の基本概念や役割について教授する。また小児の健全な成長発達段階に応じた看護の理解を通して、小児の健やかな発育に必要な親子関係や養育環境、母子保健の動向について学ぶ。	
		小児看護援助論	成長過程にある小児の特徴と小児疾患についての知識を習得し、健康課題をもつ小児と家族のアセスメントと援助方法を理解することができる。また、小児の入院による影響や環境の変化をイメージ化し、小児とその家族の看護に必要な小児看護技術の基礎となるものを習得する。 (オムニバス方式/全30回) (調書番号54 田中 完/3回) 代表的な小児疾患の理解 (調書番号⑥ 田中 克枝/7回) 小児栄養と食事、小児在宅医療の実際、小児の事故と救命救急 (調書番号⑪ 山野内 靖子/20回) 代表的な疾患を持つ小児の看護、基本的小児看護技術、演習	オムニバス形式
		小児看護学実習 I	小児の成長・発達を促進するための支援や、小児の人権を擁護する具体的な方法について考え、保育活動および幼児教育の場を通して観察し、成長・発達段階の特徴を学ぶ。	
		小児看護学実習 II	小児とその家族の成長・発達段階や健康レベルに応じた実践場面を通じ、健康の保持、増進、回復を目指した小児看護の役割や具体的な看護支援を理解し、小児を取り巻く社会や入院環境による影響について看護過程を活用しながら主体的に学ぶ。	
		看護 性 の 展 開 ・ 母	母性看護学概論	母性看護、母性保健の対象や歴史、現代社会における母性の健康をめぐる課題を理解し、広く女性のライフサイクルと関連が深い様々な健康問題について学ぶ。特に検査・治療に伴う羞恥心への配慮や、臓器や女性性の喪失に伴う心理的・社会的問題への対応、患者・家族への指導、主な症状に対する看護や代表的な手術療法に関する看護を学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	看護の展開・母性看護	母性看護援助論	<p>正常な経過をたどる妊婦・分娩・産褥および新生児期の母子とその家族に対する看護活動を実践するための基礎知識を学び、個別性を重視した看護および保健指導を行う基盤とする。さらに特有な看護技術の理論と方法を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (調書番号③ 羽入 雪子 /10回) 正常な経過をたどる妊婦の看護、ハイリスク妊産婦および産科異常の妊産婦の看護、演習 (調書番号15 坂本 保子/20回) 正常な経過をたどる産婦・褥婦、新生児および異常新生児の看護、演習</p>	オムニバス形式
		母性看護学実習	<p>マタニティサイクルにある母子と家族の身体・心理・社会的変化と適応過程、ニーズについて、既習の知識や技術を用いて理解し、個別的な看護を実践できる基本的能力を養うとともに、母子に関わる専門職としての役割と責任を自覚できることを目標とする。実際の現象や場面を通して、生理的な適応過程の促進と異常予防、母子関係の確立、親役割や育児能力の獲得、人生における出産体験の位置づけ、家族発達への看護を学習する。</p>	
	看護の展開・精神看護	精神看護学概論	<p>精神看護学概論は、人間の成長発達過程および社会の動向と深く関係する領域である。精神障害に悩む人々に関する看護の知識・技術を学ぶとともに、ライフサイクルにおける人間の精神的健康問題について理解を深めることを学習目的とする。また、地域精神保健活動、わが国の精神保健福祉活動への変遷と精神保健福祉制度について学ぶ。</p>	
		精神看護援助論	<p>精神保健上の問題のために生活や対人関係に困難を抱えている精神障がい者本人および家族の理解に必要な考え方や接触の技法、症状、検査・診察・治療について学び、看護、精神科リハビリテーションについての取り組みを交えて理解を深めていく。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (調書番号④ 神郡 博/2回) 看護における感情労働、看護師のメンタルヘルス (調書番号⑫ 蛭名 きえ/8回) 地域生活における精神看護、身体疾患と精神看護、演習 (調書番号⑮ 三浦 広美/10回) ケアの人間関係、オレム・アンダーウッド理論、演習 (調書番号⑯ 木村 緑/10回) 入院治療と看護、生活障害と看護、演習</p>	オムニバス形式
		精神看護学実習	<p>精神に障がいを持つ個人として患者さんと出会い、理解する。そして必要な日常生活援助を行い、精神の健康回復に向う看護の実践を学ぶことを目的とする。</p>	
		在宅看護学概論	<p>地域で疾病や障がいをもって生活する人々を看護するために、医療保険や介護保険制度、地域の社会資源を理解して、多職種や他機関と協働できる在宅ケアを目指せるように、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学び、拡大する在宅看護・家族看護・地域看護へのニーズとそれに応えるために克服しなければならない課題を理解する。</p>	
	看護の統合・在宅看護	在宅看護援助論	<p>在宅で療養する人とその家族を対象とした看護について学習する。在宅療養者の特徴、主な健康障害、看護援助とその提供機関、家族支援方法、社会資源の活用方法、多職種との連携方法、ケアマネージメントの学習を通して訪問看護と外来看護の特徴および入院看護との違いを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (調書番号⑤ 矢野 章永/15回) 在宅ケアの連携とマネジメント、制度と社会資源、事例にみる在宅看護、事例展開、演習 (調書番号⑨ 壬生 寿子/15回) 在宅における援助技術、日常生活用具の工夫と活用、事例展開、演習</p>	オムニバス形式
		在宅看護学実習	<p>健康障害を持ちながら在宅療養をしている個人とその家族を対象とした在宅ケアの意義を理解し、看護ですでに学習した知識と技術を統合させ、個人とその家族のQOLを考えた看護を提供する。在宅ケアにおいては訪問看護を中心としたケアシステムと看護援助方法、さらに家族を単位として生活条件、生活スタイル、生活環境、経済状態などに応じた適切なケアのあり方、関連諸機関、職種との協働によるケアの基本を学び、よりよい健康生活をつくり出す一翼を担う看護の理論と技術を教授する。</p>	
		看護の統合・看護	統合看護論	<p>患者と看護者双方に取って、安全で満足度の高い看護サービスを提供するために、看護学の専門領域でこれまでに学んだ知識・技術・態度を統合し、確実に看護を実践する方法を学ぶ。看護制度や、看護学教育、看護業務基準、看護関連の法律等、看護実践の場を支え実践を円滑に進める要素を明らかにし、看護実践の構造を具体的に理解する。看護職の倫理観にそって専門職としての自信と誇りをもって看護を実践するために看護理論について学ぶ。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	看護の統合・看護の発展	チーム医療論	<p>保健医療福祉制度における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の理念と目的、協働する活動の方法について学ぶ。チーム医療が必要とされる背景と医療チームにおける看護職の役割と責任について理解し、事例を用いた演習により、チーム医療の効果と課題および課題克服の方法を考える。</p> <p>(オムニバス形式 / 全8回) (調書番号② 高橋 正知/3回) チーム医療の理念と目的、保健医療専門職の役割、チーム医療と倫理 (調書番号⑨ 壬生 寿子/5回) チーム医療におけるコミュニケーションと看護職の役割、演習</p>	オムニバス形式
		医療安全論	<p>安全で質の高い医療サービスを提供するために必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。人はなぜ間違いをおかすのかというヒューマンエラーの基本的知識と医療職という基本的倫理観のもと、医療安全の知識と技術を身に付ける。最新の理論に基づいた事故防止の考え方と方法、実際の医療事故事例に基づいた事故の分析および事故発生予防、事故発生後の対応、我が国の組織的な安全管理体制などについて学ぶ。</p>	
		看護管理論	<p>患者の安全・安楽を目指した看護活動の実践には技術だけでなく、看護管理や看護制度についての知識が不可欠である。看護におけるマネジメントの意義・概要を学び、看護サービスの効果的で安全安定供給のためのマネジメント能力の基礎を養うとともに、看護管理や看護制度についての知識を体系的に学ぶ。</p>	
		看護教育論	<p>看護教育の理念、意義、目的、目標、教育課程、教育形態等に関する理論を体系的に教授するとともに、看護教育の歴史を振り返り、海外の看護教育についても紹介する。日本の看護教育の将来を展望しながら新しいカリキュラムとその運用の組織づくりを体験する。</p>	
		家族看護論	<p>本講義は、これまで主として患者のためにある資源的存在、または患者をよりよく理解するための背景的存在と捉えていた家族を、あらためて看護の対象として捉えなおすことによって、看護に対する多様なニーズに応え看護の質を高めることができるという立場から看護援助を考える。「家族」という存在を問い直し、家族看護の視点を明らかにし、各看護領域を横断する家族援助の方法論を追求する。</p>	
		救急看護	<p>病気や事故、災害に遭遇した時の救急処置や施設における救急救命の基礎的知識、技術を学習する。また、救急医療の置かれた現状や問題について医療システム全体の中で捉え、救急医療の将来について看護の視点から総括して展望できるよう学習する。</p>	
		リハビリテーション看護	<p>リハビリテーションを必要とする対象とその家族への看護を学習する。総論として、リハビリテーションを必要とする対象の理解、リハビリテーションチームの定義・理念、リハビリテーションチームにおける看護の役割を理解する。各発達段階や障害の特性を踏まえ、小児、成人、高齢者、精神、地域の各領域におけるリハビリテーション看護の方法について学ぶ</p>	
		緩和ケア論	<p>緩和ケアやターミナルケアの概念を理解するとともに、終末期にある対象の身体的、心理的、スピリチュアルな苦痛を理解して、対象を全人的に理解する。さらに対象のニーズに応じた援助方法について学習し、ホスピス、終末期の倫理問題への関心を深めながら、自己の死生観を養う。</p>	
		災害看護活動論	<p>近年、地球温暖化に伴う気候変動などの影響もあり災害の頻度や規模が拡大し、被害が増大している。本学の所在地は、地震・津波の多発地であり、常に災害の危険に瀕していると言える。災害がおこれば被災傷病者が発生し、当然医療・看護への要請が高くなる。そのため災害看護を理解し、災害時に適切な救援活動を行えるように、看護職としてのみならず、救援チームとして活動できるような知識・技術を身に付ける。地域的な特徴を生かして、災害看護を実践的に学ぶ。</p>	
		国際看護活動論	<p>グローバル化が進んでいる現在、同じ地球上に住む人間として、世界中の人々が互いに助けあい健康に生きていくことが求められている。日本の保健医療、国民の健康状態は、世界のトップクラスを維持している。看護職として、世界の人々の健康の向上のために国際的に協力することが期待されている。世界各国の人々の生活や健康状態の現実を見極め、日本の看護職として国際協力活動ができるようその方法を学ぶ。</p>	
僻地看護活動論	<p>僻地では、その地域的特性から環境的・人的・物的にも限られた資源の中で、包括的な看護活動が必要となる。本授業では僻地医療の理念を踏まえて、僻地の特性や地域住民の生活を理解し、ヘルスニーズに沿った僻地医療看護の特徴について学ぶ。ICTを活用した遠隔地医療なども含めた関係機関との連携や協働体制の構築に関わる看護の機能・役割を考え、僻地における看護活動の方法を考える。</p>			

授 業 科 目 の 概 要				
(健康医療学部看護学科等)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	公 衆 衛 生 看 護	統合看護実習	臨地実習の最終に行う科目である。これまでの実習経験を踏まえて理論と実践の統合を目指し思考を深めることにより、自己の看護観を確認し、今後の課題を明確にし、卒業後の学習への動機につなげる。
			公衆衛生看護学概論	地域保健の基礎となる地域保健の理念と活動の概要、地域の人々と健康、地域保健の場、地域保健に関する法令、保健福祉対策と事業計画、地域保健管理、国際協力と地域保健、地域保健活動の歴史などについて教示する。地域診断の目的を理解させ、地域診断に用いる理論を教示する。
			公衆衛生看護支援論	公衆衛生看護活動に必要な保健指導・健康相談など、保健師活動の基盤となる公衆衛生看護の実践技術の基本を教示する。保健指導に関する理論と展開、家庭訪問による援助の展開、健康教育の展開、健康診査の企画立案と健康相談、地域組織活動の展開、ICTを用いた公衆衛生看護活動、地域ケアシステムの構築とネットワーク化などの方法について実践的に教授する。
			公衆衛生看護活動展開論	さまざまな対象に対して公衆衛生看護援助を展開できるように、その理論と方法を教示する。親子（母子）保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障がい者（児）保健活動、難病保健活動、感染症保健活動、歯科保健活動、学校保健、産業保健、地域包括ケア、健康危機管理等について、事例や演習を用いて実践的に教授する。
			公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護管理の目的およびその機能を教示する。地方公共団体の組織的事業運営、他機関・団体との協働の必要性をもとに、住民の健康保持増進、地域ケアの質の確保のための施策化の方法について学ぶ。住民の権利保障と健康危機管理、リスクマネジメントの方法、情報公開と個人情報の保護の方法を身に付ける。保健施策・事業の円滑な運営に必要な予算管理・人事管理などの業務管理の方法と、保健師としてより質の高い公衆衛生看護活動を展開するための地域保健研究の方法を学ぶ。
			公衆衛生看護学実習 I	地域保健における保健福祉サービス提供システムの構築、運営とマネージメントについて、実際の保健所事業の体験をとおして理解を深める。保健所および保健サービス提供体制の整備、指導、監視の実際を体験し理解する。
			公衆衛生看護学実習 II	市町村における保健サービス提供体制の整備、指導、・監視の実際を体験する。市町村における保健福祉事業の目的や展開プロセスを理解し、住民特性・地域特性に合わせた保健事業、関連職種、関係機関との連携の実際について学ぶ。産業保健における労働者に対する保健福祉サービス提供システムの構築、運営とマネージメントについて、実際の事業所事業の体験をとおして理解を深める。
			看護学研究法	看護が人々の健康の維持送信、疾病からの回復、および安らかな死への準備にどのように役立っているかを系統的に探究することは看護ケアの改善に欠かせないことである。そのため、本講義では将来看護にたずさわる学生が実際に研究に取り組むことができるために、看護研究の意義、研究デザイン別の研究過程の概観、看護研究における倫理的配慮とその手続き、研究成果の公表などについて教える。
			看護卒業研究	看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、看護研究論文として成果をまとめる。指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に、少人数のゼミナール形式の活動をする。研究成果は、卒業論文として作成提出ののち、学生が主体的に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。